

令和6年度 教育部 施策展開方針 計画書

1 まちづくり政策(教育部関係分)

政策 6 子 育 て ・ 教 育	政策展開の方向性							
	<p>安心して子どもを産み育てられるよう、子どもが健やかに育つ環境づくりと、仕事と子育てを両立できる子育て世代にやさしいまちを目指します。</p> <p>また、子どもの権利を尊重しながら、地域全体で子育てを温かく見守るまちづくりを進めます。</p> <p>教育では、学校などでの様々な学びが、子どもたちの「生きる力」となり、今後、社会が変化し先行きが見通せない時代となっても、自分で課題を見つけ、学び、考え、判断、行動して、それぞれが思い描く夢を実現していく資質や能力が身に付くよう、地域とも連携して子どもたちを育みます。</p>							
	令和6年度に向けての展開方針（方針や重点事業の計画等を記載）							
	6-（2）子どもの教育の充実							
	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区で、中学校卒業時における「目指す子ども像」を学校・家庭・地域で共有しながら、系統性と発達段階に応じた連続性のある小中一貫教育を推進します。 ・保健衛生用品の確保など、学校内での感染症拡大防止を徹底し、児童生徒の学びの保障に努めます。 ・国が掲げる「GIGAスクール構想」に基づいて整備したICT環境の効果的な活用と、継続的な教員へのサポートにより、義務教育9年間を通して児童生徒の情報活用能力の系統的な育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、確かな学力の定着を推進します。 ・地域とともにある学校づくりを推進するため、家庭や地域と連携・協力しながら、学校支援ボランティアの派遣を継続するとともに、相互に連携して子どもを育てる持続可能な仕組みづくりのため、引き続き、えべつ型コミュニティ・スクール事業を進め、家庭や地域の積極的な教育活動への参画を促します。 ・児童生徒が授業の内容を理解し、確かな学力を身に付けられるよう、学習サポート教員や外国語指導助手を全小中学校に派遣し、一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな教育を推進します。 ・市内大学と連携しながら、小学校において体力向上プログラム出前授業や、正しい走り方を身に付けるための「走り方教室」を実施し、体を動かすことの楽しさを感じながら児童生徒の体力向上に取り組むことで、心身ともに健康な子どもを育成します。 ・中学校の部活動について、生徒たちが運動や文化活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、部活動指導員を導入し地域連携を進めるとともに、当市に適した部活動のあり方について、引き続き検討します。 ・学校における読書活動の充実を図るため、学校図書館の蔵書率向上を進めるとともに、情報図書館と連携し、司書の巡回配置と学校要望に応じた随時支援により読書環境整備や朝読書などの教育活動支援を行います。 ・特別な支援や配慮を必要とする児童生徒に対する適切な教育を行うため、特別支援教育支援員の適正配置や特別支援教育に関する教員の資質向上を図る研修の実施などに努めます。 ・様々な悩みや課題を抱える児童生徒の支援を充実させるため、スクールソーシャルワーカーが、学校・福祉・医療などと連携して課題の改善に取り組みます。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、児童生徒にいじめを許さない意識を醸成させるとともに、いじめアンケート調査等により学校が認知したいじめの組織的な対応に努めます。 ・常設化する適応指導教室での支援のほか、各学校が設置する登校支援室へのボランティアの派遣、自宅においてオンライン学習等を行った場合の出席扱いの基準の統一など、不登校又は不登校傾向にある児童生徒の教育機会及び居場所の確保を図ります。 ・安全で安心な教育環境確保のため、「江別市学校施設長寿命化計画」に基づき、学校施設・設備の更新等を計画的に進めます。また、学校施設内の暑さ対策推進のため、冷房設備等の整備についても、あわせて進めて行きます。 ・学校給食を安定的に提供するため、引き続き、調理場施設・設備の維持補修、計画的更新に努めるほか、施設の老朽化等への対応をはじめとした今後の学校給食のあり方の検討を進めます。 							
	政策の成果指標		単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標
	江別市は、教育施策に力を入れているまちだと思ふ市民割合		%	43.0				↗
	自己肯定感が高い児童生徒の割合		%	77.5				↗
	教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況							
	「学校教育基本計画」 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合		%	78.6				↗
「学校教育基本計画」 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思ふ児童生徒の割合		%	88.6				↗	

政策展開の方向性

全ての市民が、いつでも、どこでも学習活動、文化・芸術活動や、スポーツ活動を気軽に行える環境を提供し、いつまでも心身ともに健やかで充実した生活が未来へ続くようにします。
また、江別市の貴重な地域資源である、やきもの文化や歴史遺産を通じて、ふるさと愛の醸成を図ります。

令和6年度に向けての展開方針（方針や重点事業の計画等を記載）

7-（1）生涯学習の充実

- ・市民の多様なニーズに対応した学習活動の拠点である公民館や情報図書館をはじめとする社会教育施設について、「江別市公民館等長寿命化計画」や「江別市情報図書館長寿命化計画」などに基づき計画的に整備・改修等を進め、安全性の確保や利便性の向上を図ります。
- ・市民が主体となって活動している社会教育関係団体等へ支援を行うほか、市広報紙やホームページ、社会教育関係団体発行の情報誌などにより、生涯学習に関する様々な情報を提供していきます。
- ・市民の様々な学習意欲に応えるため、学習ニーズを的確に把握し、市民一人ひとりが意欲的・主体的に学びを続けていけるよう、学習機会を提供していきます。
- ・自然体験活動や文化活動を行う団体と連携し、地域の特色を生かした体験活動を実施するなど、学校・家庭・地域が一体となり、地域社会全体で青少年の健全育成への取組を進めます。
- ・情報図書館に図書セルフ貸出機等を導入するなど、利用者の利便性向上と業務の効率化を図ります。

7-（2）ふるさと愛の醸成と地域文化の継承

- ・市民や団体などが地域で行う文化・芸術活動への支援を行い、人材や団体の育成を図る事業を推進するとともに、市民が質の高い優れた芸術を鑑賞する機会の充実に努めます。
- ・「北海道林木育種場旧庁舎」や「旧町村農場」など歴史的建造物の適切な維持・保全に努めるとともに、歴史的価値を広く周知し、施設の活用を推進します。
- ・郷土資料館、セラミックアートセンターなどの文化施設では、安全・安心で快適な学習環境を提供するため、施設の適切な維持管理に努めます。
- ・魅力ある郷土の歴史と文化に誇りを持ち続けてもらうため、郷土資料館では、展示内容や各種講座プログラムの工夫を図るとともに、収蔵資料の適切な管理と活用に努めます。
- ・開館30周年を迎えるセラミックアートセンターでは、やきもの文化の普及を一層促進するため、優れた陶芸作品の鑑賞機会や教室、講座の充実を図ります。
- ・「れんがのまち えべつ」としてのアイデンティティを再確認し、浸透させるため、市内に点在するれんが関係遺産の一体的なPR活動を支援します。

7-（3）市民スポーツ活動の充実

- ・スポーツ関連団体や体育施設管理団体等との連携により、スポーツイベントや講座を充実させ、多様な主体に応じた生涯スポーツの推進を図ります。
- ・スポーツへの関心を高め、市民スポーツの推進を図るため、トップアスリートとの交流や障がい者スポーツへの支援に取り組めます。
- ・地域スポーツ活動や競技スポーツの活性化を図るため、市内のスポーツ団体を統括する組織への支援を行うとともに、市内小中学校の体育施設の活用を図るなど、スポーツ活動の場を提供します。
- ・利用者アンケート等により、市民ニーズを的確に把握し、体育施設の利便性向上と利用促進を図るとともに、「江別市スポーツ施設長寿命化計画」に基づき、施設の適正な維持・改修整備を計画的に進めます。

政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標
文化・芸術活動に参加している市民割合	%	26.6				↗
週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合	%	44.2				↗

教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況

「社会教育総合計画」 生涯学習の機会が充実していると思う市民割合	%	62.2				↗
「社会教育総合計画」 文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合	%	35.3				↗
「スポーツ推進計画」 スポーツ機会が充足していると思う市民割合	%	63.8				↗

政策 8 協働・共生	政策展開の方向性							
	江別市自治基本条例で掲げる市民自治の理念に基づき、市政への市民参加を進めるとともに、市民、自治会、NPO、ボランティア・市民活動団体、企業、大学などの各種団体と連携し、魅力ある協働のまちづくりに取り組み、多様な主体があるままに暮らせる共生のまちを目指します。 また、グローバルな視点に立ち、人材・団体の育成を行うほか、国際交流を推進するとともに、在住外国人にとっても住み良いまちを目指します。							
	令和6年度に向けての展開方針（方針や重点事業の計画等を記載）							
	8－（1）協働のまちづくりの推進							
	・友好都市高知県土佐市と小中学生の相互派遣による交流研修事業や両市特産品のPRなど、教育、文化、経済等の地域振興を柱とした交流事業を実施することにより、相互理解を促進し、友好親善を一層進めます。							
	8－（3）国際交流の推進							
	・国際交流を担う団体等に対する支援や、その活動拠点となる江別国際センターの維持・管理に係る経費を補助することにより、市民が国際交流と関わる機会を提供します。 ・姉妹都市米国グレシャム市との中高生相互派遣事業などの教育を柱とした相互交流を進めるとともに、市内の国際交流団体等で構成された組織である江別市国際交流推進協議会と連携し、国際交流イベント等を開催するなど、市民の国際理解を推進します。 ・日本語に堪能で地域の国際化事業に理解と意欲のある国際交流員や江別国際センターと連携・協力し、在住外国人が市内で生活するうえで必要な情報や、日本語を学べる機会を提供するなど、言葉や生活習慣が異なる環境においても安心して暮らせるまちづくりを進めます。							
	政策の成果指標		単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標
	協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合		%	27.2				↗
	お互いの文化や価値観を理解し、外国人と交流できる市民割合		%	60.7				↗
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況								
「国際交流情報提供事業」 国際交流員が関わった地域国際化のための講座・イベント等の参加者数		人	846				↗	

2 えべつ未来戦略(教育部関係分)

戦 略	■ 具体的施策 「関連事業」(担当課)
【戦略1】 子どもが主役のまちをつくる	④ 教育内容の充実 「小中一貫教育推進事業」(学校教育課) 「小中学校学習サポート事業」(学校教育課) 「小中学校外国語教育支援事業」(学校教育課) ⑤ 教育相談・支援の充実 「スクールソーシャルワーカー事業」(教育支援課) 「いじめ防止対策事業」(教育支援課) 「不登校児童生徒支援事業」(教育支援課)
【戦略2】 幸せに歳を重ねられる暮らしをとどける	
【戦略3】 みんなの働きがいと、元気な経済をつくる	
【戦略4】 地域から地球温暖化防止に挑む	
【戦略5】 デジタル技術で住みよい明日を切りひらく	

3 教育部の資源

		実績			予算額	
		—	—	—	令和6年度	—
歳出予算額 (千円)	一般会計 (A)				3,215,101	
	特別会計 (B)				0	
	合計 (A+B)	0	0	0	3,215,101	0
正職員人件費 (千円)	人工 (a)				92.00	
	平均単価 (b)				7,464	
	人件費 (a×b)	0	0	0	686,688	0
総額		0	0	0	3,901,789	0